アンナプルナ農園通信

〒８６１－１４１熊本県菊池市原木護４４９０ Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206
annapurnaFarm.com

田んぼに稲穂がみのり、庭の萩や秋桜がうれしそうに風と戯れています。

みぞそばや ただならぬ世の 片すみに

農繁期が終わって、あとは稲刈りを待つだけ。ホッとしているところです。

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

この夏、若杉のおばあちゃんが農園に来てくださいました。それから、土鍋でご飯を炊いています。土鍋は一度温度が上がると、冷めにくく煮物や煮豆もコトコト弱火でおいしくできます。若杉さんはなんであんなに元気なのでしょうか？ なんてかわいい縄文人！ 小さなからだで、大きな声で、身ぶり手ぶりも大きくて、定員をはるかにオーバーして集った若いお母さんたちが爆笑しながら、お話しに耳をかたむけていました。

たっぷり話しを聞いたあと、夕陽をあびながら、農園のまわりを一緒に散歩したときに、

「あーこれこれ、後で料理してみようね」と言って摘んで、教えて下さったのがツユクサとイノコヅチとベニハナボロギク。この紅花ボロ菊は茶畑に広がって困っていた雑草で、

「えー、これ食べれるのー」とみんなびっくり。葉っぱがちょっと破れてしまったような形をしているところからボロ菊になったんじゃないかと思います。食べ方は茹でたり、しょうゆ洗いしたり、あく取りに少し手間がかかりますがおいしい野草のおひたしがいただけます。

それから、よもぎを干して、煮出した汁を入れた足湯やお風呂に入ると、とても身体が暖まります。よもぎも畑では困りものとみられていますが、じっさいは宝の山。小さくきざんで箱に入れて冬中使えそうです。

現代は冷え性の人がほとんどで、あらゆる病気は冷えからくるものが多いそうです。夏に冷やした身体を暖めるために秋は根菜入りのみそ汁を食べたいですね。

お茶のおいしい季節になりました。朝いちばんに梅干しを入れたほうじ茶をいただくと、からだがとても暖まります。ただならぬ時代だからこそ、ゆっくりとお茶をいただくゆとりを持ちたいものですね。

（チコ）

破壊／創造

阿蘇山を南から見て 11 時の方角の、外輪山の外側にアンナプルナ農園があります。山深い農園からさらに１㎞ほど登ると廃村になった上木護の集落があり、清らかな水がこんこんと湧いています。水源をまもるために５ha ほどのその廃村を購入しました。

10 年ほど人が住んでいなかった村は草に覆われ、藪に覆われ、竹や木々に覆われて入ることも歩くことも困難なほどでした。締めきられ、閉ざされていた家々はほこりがつもり、壁も屋根もなかば朽ちかけて、まるで「となりのトトロ」のメイたちが引っ越しした古い家のよう。マックロクロスケや妖怪や、幽霊さえでてきそうなこわい雰囲気でした。

この秋、この村をよみがえらせる３ヶ月間のロングラン・ワークショップ『ワーク９／ふくしま文庫』を開いているところです。背丈ほどもある草を刈り、ブッシュを開き、木を切り、塞がれていた家をあけて風を通し、たくさんの物を選別して捨て、掃除をして、修理できない家を壊す・・・それを日々つづけてゆくと、驚くほどうつくしい景観が顕われてきます。

水源の泉や池や小川が姿をあらわし、秋の陽光にキラキラと輝いて流れるようすは、まるで奇蹟をみるようです。妖怪が妖精になり、幽霊は精霊に変身して、よろこびに満ちて踊るのです。先端まで蔓草に覆われていた樅の大樹の蔓を切ると、しおれた蔓草の陰から枝葉をだして、大きく息をついて背伸びをしているようでした。藪に覆われていた石垣も久しぶりに陽射しをあびて生き返ったようにうれしそう。

そんな数々の奇蹟のなかでもとびきりは、よみがえった五右衛門風呂でした。壊れかけた石を積みなおし、排水を調え、壁と屋根を壊してはいった露天風呂の気持ちよさ！それからみんなは夕方に入るお風呂を楽しみに働くようになりました。

『ふくしま文庫』は、福島の子供たちがいつでも来て宿泊できる保養の場です。また、文明に課せられたフクシマという大問題を解決すべき子供たちの学びの場でもあり、そのための教科書をつくる研究所でもあります。KEOLA 研究所。ハワイの言葉で「生命」を意味します。ダムの底に沈んだ村から移築した立派な建物で、広い下屋をきれいにしたら素敵なカフェになりました。楓の大樹に囲まれた庭があって、もう紅葉がはじまっています。Café KEOLA の朝食が人気です。

ふくしま文庫の二棟の家のそばには３本の枯れた松が立っていました。草を刈り木を倒すと、背丈が 30 ㎝くらいの松の赤ちゃんが生えていました。枯れて死んだ松のかわりに、この赤ちゃん松が大きく育ってゆくように、囲いをつくって見守っています。大木が枯れて倒れると子供の木が育ちます。そのように、創造は破壊から始まります。私たちが目の当たりにしている文明の死もまた、きっと、新しい文明の誕生のためなのでしょう。

（正木高志）

「かぼちゃのチャチャチャ」 ぼうぶら

木護の里に清々しい風がおだやかに流れる秋晴れの日が続いています。今年は梅雨明けがわからないままに雨の日が続き、夏日も一週間に一度ほどで過ぎてしまいました。大好きな川に飛び込んだのもたった一度だけ。熊本の夏の日照時間は平年の４０％以下で、１１年ぶりの冷夏だったということです。

日照時間が少ないと特に心配になるのがお米のいもち病です。近所の田んぼではすでに稲穂に実が入らず枯れてゆくシイラが増えていました。幸い、うちの田んぼでは今のところまだ被害は見られていませんが、この先どうなってくるのかちょっと緊張します。

雨続きの冷夏の中でもひときわ元気だったのがかぼちゃです。今では畑の面積の半分を覆うほどに広がり、まだまだ大きな黄色い雄花を咲かせています。菊芋の黄色い花、マリーゴールドのオレンジ色や黄色、そして、コスモスのピンク色と白い花。秋の畑は花がいっぱいになっています。

５畝（せ）ほどの長方形の畑の角に生ゴミのコンポストが２つ作ってあり、その横に完熟し土になったゴミ堆肥を小積んでいました。春になるとそこからかぼちゃの種がたくさん芽を出してきたのです。葉の形は少なくとも４種類以上はありました。黒皮かぼちゃ、東京かぼちゃ、ぼうぶらかぼちゃ、去年大分のぶらぼうファームで買って来たオレンジ色の品種などが、混じっているようです。

ツルは雑草や野菜や支柱など、畝を越えて触るものにどんどん巻き付き張り付き、八方に勢いよく延びていきます。葉が２５枚になったら茎を切って止めた方が良いと聞いたのですが、どこまでも雄花ばかりで、実をつける雌花がひとつもないのです。雌花を待つために親ツルの芯止めを放置し、子ツルの先に雌花がつくのかなと待ち、そうしている間に孫ツルも延びてきました。ツルは畑から木の枝にも駆け上がり、畑の上の段の茶畑にも延びていきました。さすがはかぼちゃ、土手が得意なんですね。

実を持たないで「ツルぼけ」に終わるのではと思い始めた頃、ようやくあちこちのツルの先端に、小さなつぼみを帽子にして丸いつやつや顔の実をもった雌花が現れてきました。わお～！雌花ひとつ咲かせるのにこんなにも茎を延ばし、雄花をたくさん咲かせるのかと、あきれるやら感動するやら。雌花を持つとツルの先端は上向きから下向きに変わるんですね。広がる陰のエネルギーから実を持つ陽のエネルギーへの変化なんでしょうか、実に面白いです。畑にはどこからともなく、丸っこい身体をした「ぼうぶらバチ」がたくさんやってきて、受粉を手伝ってくれます。僕も「ぼうぶらバチ」に混じって雌花探しをします。

おかげさまで今は茎が伸びた先々に様々な形のかぼちゃたちがたくさんいて、木や支柱からもランプのようにぶら下がり、とてもにぎやかです。その光景はさながら「かぼちゃのチャチャチャ」という感じです。今日はどこかに新しいかぼちゃが誕生していないか探すことが密かな楽しみになっています。

（オト）

いずみ村
Temple 茶屋 Open
2014/11/1（土）
龍神さまがトーラス市 ☆出店募集中
１１：００am～１５：００pm
「くりどら☆セレクトフリマ」
根本きこ／南流石 /enishi/mash/etc
アジアの光
１１月１日（土）韓国編　内田ボブ＆ナーガ
16:00pm～韓国のお話（正木高志）18:30～ライヴ
１１月９日（日）　ハワイ編　小田まゆみ
１２月１３日（土）フィリピン編　山本公成
お問い合わせ　０９６８－２７－０２１２
annapurnafarm.com

「 トーラスのテンプル 」

鈴虫の鳴き声が響く秋の農園です。植え付けも終わり、薪割りや、庭の手入れなど冬支度の季節になりました。

花鳥山には山栗がたくさん実り、今年も栗林がイノシシたちのパーティ会場になっているようです。犬のニコの散歩コースは栗林の参道を通り抜けた先にある山の神様です。

ある日の夕暮れ、いつものように二コと森を歩いていると、枯れた林の中から、アーモンド型でサッカーボールくらいの大きさのウリボウの兄弟が飛び出して、猛烈な早さで消えてゆきました。イノシシのお母さんから注意されたかもしれないのにウリボウたちは暗くなるのを待ちきれず、勇み足で会場に来ては栗を頬張っているようなのです。二コはウリボウを発見するとキトキトに興奮して疾走＆追跡。でっかいイノシシが背後からヌっと現れる事を恐れて必死で呼び止める。

「ニコーー！戻っておいでーー！イノシシの家族になっちゃうぞー！！」４歳を迎え賢くなったのか、叫び声を聞いて、しばらく考えてから、戻ってきました。今年はイノシシ増えて大変とか、昨年は４０頭仕留めたとか、害獣だとか、そんな話しも聞きますが、森で出会ったイノシシは静かな波長で生きている平和な存在でした。

アンナプルナ農園は菊池川の上流に位置します。阿蘇の地下水が菊池川となって有明海まで流れていますが、農園のある木護という地域も小さな水源がいくつかあり、木護川という小さな川になり、菊池川に合流しています。菊池川には白龍伝説があるそうなので、ここの水源の水神さまを白龍（ハク）またはクリスタル・ドラゴン（クリドラ）とよんでいます。

黒澤明の「夢」に出てくる水車村のような村。この水源近くの廃村をひょんな事から今年の冬に農園が購入しました。購入する事になった大きな理由は、水源地を守るという事。そしてもう一つの理由は廃墟の中の古民家を修復して福島の子どもたちや家族の保養の家にする事です。「ふくしま文庫」という名前です。

オトラビは、水神さまのすぐ近くに立っている公民館のようなスペースを任されています。この空間にはじめて入った時ハワイのチベット寺院のような雰囲気だったのと、水神さまを祀るお宮のようなイメージがあったのでこの場を「Temple」と名付けました。

不二の真理（アドヴァイタ）を学び、水のおかあさんを讃える「Temple」の誕生です。

物語が大好きだった子どもの頃から、映画館と図書館を作るのが夢でした。「Temple」はミニシアター＆ライブラリーとして物語のある空間、そして峠のお茶屋さんのような憩いの場にしてゆきたいです。何せここは「千と千尋の神隠し」さながらの「おとぎ話し」溢れる村なんです。

過疎化した場所は、新しい文明の先端。「Temple」は国境を越え、東アジアの文化創造の発信地（メディア）としてもアンテナが動きはじめるような気がします。

そうは言っても、今は、雨漏りと壊れた床を修理したばかりの、すっからかんの箱ですが、みんなのコミュニティ「Temple」になるように、これからゆっくりと準備してゆきます。技術もなく手際が良いとは言えない私たちですが、ご指導よろしくお願いします。

年内は「アジアの光」と称し３回のイベントを予定しています。奥山よりみなさまのお越しをお待ちしています。

（ ラビ ）